

平成31(令和元)年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 (めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 (教育活動)	評価基準
1 未来開拓型カリキュラムの充実	教務課	習熟度別少人数授業の効果を高める工夫について研究し、実践する。	学力向上委員会と協働し、習熟度別少人数授業についての工夫を具体的に提案し、実践と検証をおこなう。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「選択授業や進路志望、習熟度等で講座を分けた授業は、あなたの学力の向上につながっていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度84%) 4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満
	教務課	「千鳥型学習指導のスタンダード」に基づく授業の実践、および継続的な指導の改善を推進する。	校内互見授業と公開授業において、授業実践の成果と課題を教員間で共有できるよう、指導改善の意見交換につながる枠組みを整える。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「笠岡高校で行われている授業は、魅力的で、意欲的に取り組みたい授業ですか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度56%) 4:70%以上 3:60%以上 2:50%以上 1:50%未満
	進路課	大学入試問題研究を推進し、効果的な受験指導ができる教科指導力の向上を図る。	教科・科目内で大学入試問題の検討会を、予備校主催の大学入試研究会参加後の伝達会も含め、半期に2回以上開催する。	教科アンケートによる5教科の実施回数の平均値で評価。 (昨年度:各教科平均年3回) 4:年4回以上 3:年3回以上 2:年2回以上 1:年2回未満
			実力テストの問題作成において、教科・科目内で生徒の現状分析や、採点後の分析会を実施し、教科指導力の向上につなげる。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「校内実力テストや校外模試はあなたの学力を把握するのに役立っていますか。」 ①とても役立っている②役立っている ③あまり役立っていない④役立っていない ①+②の割合(昨年度:91%) 4:95%以上 3:90%以上 2:85%以上 1:85%未満
2年団	進路課	教科カウンセリングの充実を図る。	定期考査前に実施する放課後の質問教室、および土曜日学校開放講座の補充講座について、実施方法の改善と環境整備を進める。	生徒アンケートで評価。 「定期考査前の質問教室、土曜日の補充講座に参加している。」 ①よく参加している ②時々参加している ③あまり参加していない④参加していない ①+②の割合(昨年度:73%) 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満
	2年団	1年次に身につけた、自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ家庭学習習慣をさらに強化させ、基礎学力を向上させる。	学習習慣について、課題や予習・復習にさらに主体的に取り組むこと、および3教科型から5教科型へ移行することを重点に置いて指導する。	学習実態調査の1週間の平均学習時間で評価。(1年次:4回平均204分) (昨年度2年生:5回平均214分) 4:240分以上 3:200分~240分 2:160分~200分 1:160分未満
			習熟度別の授業や課題、個人指導や教科面談を中心とした指導で、広範囲の学力層の生徒をきめ細やかに支援する。	学校評価アンケート(生徒2年)で評価。 「笠岡高校の教育は、あなたの学力を伸ばすものになっていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(1年次:72%) 4:80%以上 3:75%以上 2:70%以上 1:70%未満

平成31(令和元)年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 (めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 (教育活動)	評価基準
2 志を育むキャリア教育の進化	進路課	ACTプログラムを軸としたキャリア教育の充実と効率化を図る。	ACTプログラムについて教員間の共通理解と実施方法の効率化を図るとともに、生徒にキャリア教育の意義を実感させる。また、実施後速やかに検証を行い、プログラムの改善を図る。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「笠岡高校は、総合的な学習の時間(ACT)などを利用して、将来の進路や生き方について、考えを深めさせるように、計画的に指導ができていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合(昨年度:生徒81%) 4:90%以上 3:85%以上 2:75%以上 1:75%未満
	進路課	3年間を見通した進路指導により、生徒が早期に志望校を固め、進路実現に向けて努力する姿勢を身につけさせる。	進路の手引きを基本とした、進路シラバスに則って、生徒面談、ACT、LHR、集会を実施し、効果的な進路指導を行う。	学校評価アンケート(生徒)(保護者)で評価。 「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合 (昨年度:生徒89%・保護者88%) 4:生徒・保護者ともに90%以上 3:生徒・保護者ともに85%以上 2:生徒・保護者ともに80%以上 1:生徒・保護者いずれか80%未満
	生徒課	挨拶をはじめとしたコミュニケーションスキルを高め、好ましい人間関係を形成する能力の向上を図る。	挨拶を日々励行するとともに、マナー講座等の適時実施により、社会で生かせる基本的な力の向上を図る。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「笠岡高校の生徒は、学校内や地域で、積極的に挨拶ができていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合 (昨年度:45%、一昨年度:52%) 4:60%以上 3:50%以上 2:40%以上 1:40%未満
	図書情報課	生徒が図書及び情報機器を活用し自らの興味関心や学習内容を深めたり広げたりできるよう支援する。	教科等と連携して書籍を選定・購入・配置し、生徒が図書館内外で日常的に活字に親しむ環境を整える。	前年度の一人あたりの貸出冊数を基準に増加率で評価。 (昨年度2468冊/576人=4.28冊/人) 4: +10%以上 3: ±0%~10% 2: -10%~±0% 1: -10%未満
	1年団	自ら学び続ける姿勢を持った、志の高い自立した学習者を育てる。	「地域学」を中心としたACTのプログラムを引き継ぎ、充実させる。	「未来開拓力」ループリックでの生徒の自己評価において、前期平均値(最大値5)を基準に、12月期の平均値で評価。 4: +1.0以上 3: +0.5以上、+1.0未満 2: ±0以上、+0.5未満 1: ±0未満
	3年団	「自分で」意志を持って「自分で」決めて「自分で」行動に移し振り返ることができるように支援する。	担任面談において、コーチングを重視した方法で、生徒自身の可能性に気づかせ、高い志を「自分で」実現しようとするように支援する。	学校評価アンケート(生徒3年生)で評価。 「笠岡高校は、面談などを利用して一人ひとりの生徒に応じた進路指導を行っていますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合 (2年次:88.4%)(昨年度3年生:89.4%) 4:90%以上 3:85%以上 2:80%以上 1:80%未満

平成31(令和元)年度 岡山県立笠岡高等学校 学校経営の具体的計画

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・学年での重点目標 (めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・学年内での具体的方策 (教育活動)	評価基準
3 主体性を育てる取り組みの促進	進路課	外部連携による、校内外の様々な学習機会に挑戦させ、生徒が自らの人生と社会との関わりについて主体的に考える姿勢を身につけさせる。	地域学での笠岡市との関わりや、テーマ探究における大学との関わりに主体的に取り組ませる。地域のシンポジウムや大学主催の学習会・コンクール、医療・看護体験等の職業体験の案内等を計画的に行い、生徒の校外での学習活動への積極的な参加を促す。	生徒アンケートで評価。 「ACTでの外部連携による活動や学校で案内している外部の行事はあなたの進路選択に役立っていますか。」 ①とても役立っている ②役立っている③あまり役立っていない ④役立っていない ①+②の割合 4:95%以上 3:90%以上 2:85%以上 1:85%未満
	生徒課	ホームルーム活動や生徒会活動(各種委員会や学校行事等)への生徒の主体的な参加を促す。	新入生歓迎行事や球技大会等を実行委員や体育委員を中心に生徒が主体的に取り組む学校行事にしていく。また、できるだけ多くの委員会で、生徒の主体的な活動に取り組ませる。	学校評価アンケート(生徒)で評価。 「ホームルーム活動や生徒会活動(各種委員会や学校行事等)に、生徒が主体的に参加していると思いますか。」 ①はい・そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない ④いいえ・そう思わない ①+②の割合 (昨年度:生徒82%、一昨年度:82%) 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%未満
	生徒課	ボランティア活動や社会貢献活動への積極的な参加を促し、社会へ寄与することの大切さを認識させる。	千鳥ボランティア、各種ボランティア活動、校外の地域の活動等への積極的な参加を呼びかける。	千鳥ボランティア(2回)へのべ参加者数で評価。 (昨年度:505名、一昨年度:554名) 4:550人以上 3:510人以上 2:470人以上 1:470人未満
健康環境課		整美・保健・福祉の各委員会で、生徒から活発に要望・提案・企画などが出され、それが反映された活動を実施する。	委員会の担当する業務に対する関心や課題意識を高めるため、各委員会を適宜(年3回以上)開催する。顧問は生徒の意欲を尊重し、適宜アドバイスをを行いながらその実現を支援する。	各委員会活動における新しい取り組みの有無で評価。 4:3つの委員会で実施できた 3:2つの委員会で実施できた 2:1つの委員会で実施できた 1:新しい取り組みができなかった
図書情報課		図書委員会が図書に関わる主体的な活動を推進する。	カウンター当番や蔵書整理など通常の図書委員の仕事に加え、「千鳥カフェ」での読書活動の啓発などを継続的に行う。	図書館業務や委員会活動への図書委員の参加率で評価。(昨年度:90%) 4:90%以上 3:80%以上 2:70%以上 1:70%以下
			図書委員が地域と連携した図書活動を企画・運営する。	学童クラブとの交流回数で評価。 4:4回以上 3:3回 2:2回 1:1回以下
総務課		多様な学習機会を提供し、活動をととして、課題を発見し解決する力の向上を図る。	オープンスクールや千鳥ゼミ、学校説明会で生徒が主体的に活動する場を設ける。	オープンスクールや千鳥ゼミ、学校説明会に運営スタッフとして参加した生徒数で評価。(昨年度同行事で143名) 4:160名以上 3:140名以上 2:120名以上 1:120名未満
1年団		自ら考え、行動し、改善していける自覚とプライドを持った「千鳥生」を育てる。	主体性を持ったリーダーを育てることができるよう、既存行事の運営方法の変更や生徒主体の学年行事の実施を企画する。	生徒主体に切り替えることができた行事の数で評価。 4:6つ以上 3:3つ～5つ 2:1つ～2つ 1:できなかった